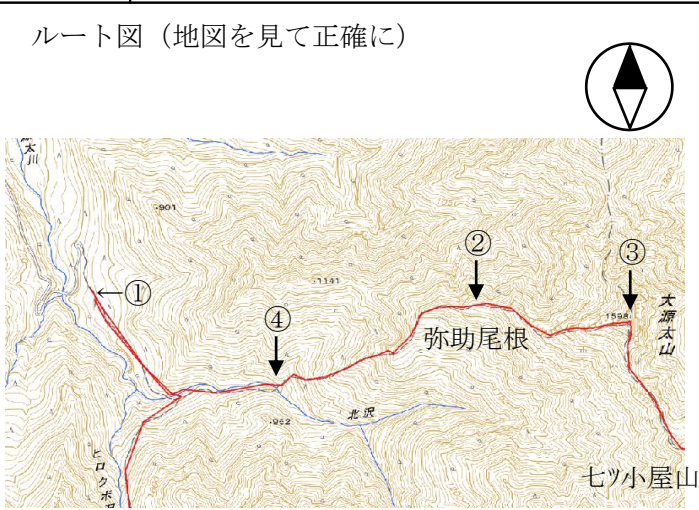


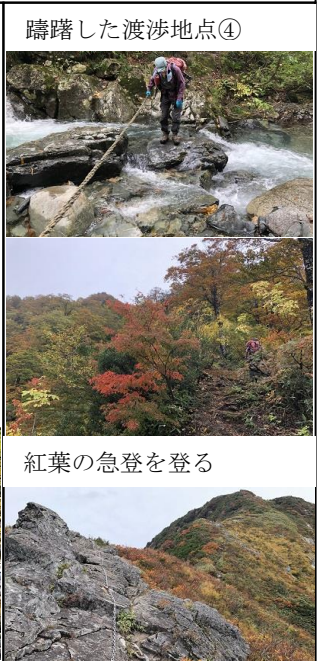
10月度 例会 山行報告書		報告者	津田廣一	参加 メンバー	CL; 藤田 勝啓 津田 廣一
		報告日	10/30		
山城	上越の山	山行日	19年10月21日(月) 日帰り		
山名	大源太山				
山行目的	秋山(紅葉)を楽しむ		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先
総会参加数
山行: 1
リーダー
原紙:
会事務局



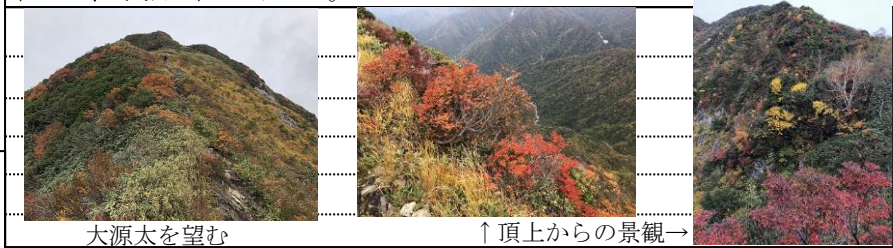
1/2.5 万地形図:

10/21 曇り
8:00 民宿 (苗場) 発
8:45 登山口着
9:00 登山口①発
10:25 1150m②
(1本10分)
11:45 大源太山頂上③
(20分)
13:05 1150m② (通過)
13:30 渡渉点④
(1本10分)
14:05 登山口着



出発し10分少々、早速渡渉

〈山行報告〉6時頃に起き、7時から朝食、8時に宿を出る。今日は、“上越のmatterホルン”と称される大源太山だ。天気は良さそうだし、ワクワクしてくる。林道の終点まで詰めると登山口だ。そそくさと準備して出発。平坦な道を10分ちょっと歩くと、最初の渡渉だ。ロープが張ってあり慎重に渉るが、水深も浅く、ここは難なく通過。沢筋の道をアップダウンし20分程進むと、渡渉地点④に到着。岩と岩の距離が結構あり、且つ水深が深い。“何とか越えられそうに思うが、失敗するとずぶ濡れだなあ〜”と、思わず躊躇する。藤田が、外に渡れそうな所がないかと、上流へ探しに行った。待っている間に、後から登って来た年配の登山者が、1度立止まったものの2本のストックを流れの前の岩に突き、ヒョイと勢いよく飛び越した。感心して見ている内に藤田が戻る。「ここを渡るしかない」との事。ぎりぎりまで距離を詰め、前の岩に意を決して飛び移る。対岸に渡ってからは、急登が始まった。汗だくになって、木の枝を掴んで身体を攀じ上げる。約40分の格闘。急登を登り切り平坦地で1本。先程の登山者も休憩中だった。挨拶するも無言。“耳が遠いのか?” 大声で「この山は何回目ですか?」と聞くと、「初めて」と一言。休憩が終わったのか、さっさと先へ行ってしまった。岩場に差し掛かると、大源太がその姿を現した。紅葉も進み、今回の山では一番良かった。岩場の急登を登り切ると頂上が待っていた。中々に、手強い山であった。



確認
(リーダー)
藤
19/11/23
田
作成
(報告者)
津
19/10/30
田

〈リーダー所見〉
誰が呼んだか「上越のmatterホルン」。今回の彌助尾根コースは渡渉あり、固定ロープの急登ありで登り3時間、下り2時間の行動だった。matterホルンらしい鋭鋒を見るにはこちらのコースよりも反対側の七ツ小屋山方面からが良さそうだ。頂上は断崖絶壁で爽快な場所でした。

